

PILテストを用いた心理相談

～ワーク・ライフの意味・目的に気づくために～

◆講師：千葉征慶 当会代表理事

第一種衛生管理者・公認心理師
キャリアコンサルタント・心理相談員
臨床心理士・シニア産業カウンセラー

◆日時：2021年3月20日（土）14時～17時15分

◆開催方法：ZOOMによる開催（定員30名）

*申し込み受付者に、後日、ミーティングID、パスワードを送付します。単位が必要な方は、終了後簡単な受講報告の提出をお願いします。

◆受講料：会員2,000円、一般3,000円

◆単位：2単位申請中

PILテスト(The Purpose In Life test)は、ロゴセラピーの理論に基づく心理テストとして考案されました。そして、ロゴセラピーは、「夜と霧」の著者である精神科医のビクトール・フランクルが提唱した心理療法として知られ、人間の苦悩や罪や死、という実存的な問題を直視した療法として、ターミナルケア、そして東日本大震災以降、特に注目されるようになってきました。

PILテストは、態度尺度、文章完成法、そして自由記述という三つの様式で、クライアントが日頃どのような気持ちで生活しているのかを知ろうとします。特に文章完成法の部分には、「フランクルの質問」と呼ばれる、フランクル自身がセラピーにおいてクライアントに問いかけていた事柄が反映されています。したがって、PILテストとそれによって得られる情報をもとに、クライアントと話し合うことによって、ロゴセラピー的な会話がなされることが期待されます。この講座ではこの理論を学び、職場のメンタルヘルスやキャリアカウンセリングなどに活用できる、この理論に基づいたPILテスト（生きがいテスト）の利用方法も学びます。

【講師からのメッセージ】

「こんな生活をしていて何の意味があるのだろうか」「どうして私がこんな苦しい思いをしなければならないのだろうか」「私の人生に意味があるのか」などと、私たちはその意味を探し求めるものです。それぞれの人が自らに与えられた命のかけがえのなさ——責任と可能性——に目覚め、その都度その都度、自由に選択し、自らの生き方を決定するプロセスを、PILを用いた心理相談において援助できたらと思います。

～講師プロフィール～

◆上智大学大学院修士論文でPILテストを用いたことがきっかけで、日本版PILテストの開発メンバーとなる。1986年富士通に入社、富士通川崎病院メンタルヘルスサービス室でカウンセラーとして勤務。1992年関西に転勤。1993年に完成した日本版PILテストは、同年来日したフランクルに高く評価された。2001年より日本人初のロゴセラピスト勝田茅生先生に師事しロゴセラピーを学び、A級ロゴセラピストとしてその普及につとめている。